

# やまとの環境

## 概要版

— 環境基本計画年次報告書 —

令和3年度版（令和2年度実績）



コミュニティセンター中央林間会館

大 和 市

## やまとの環境（大和市環境基本計画年次報告書）について

やまとの望ましい環境像である「自然の恵みを取り入れた、健康に生活できる、一生を安心して暮らせるふるさと」の実現のために、大和市では平成 10 年度に環境基本計画を策定しました。

その後、平成 20 年に目標設定水準や施策の見直し等による改定を行い、平成 29 年度には計画の進捗状況や社会情勢の変化等を踏まえて、二度目の改定を行いました。

本計画では、目標の達成度や施策の進行状況を定期的に把握・評価し、必要に応じて見直しや修正を行うこととなっています。

このため、当該年次報告書を作成し、やまとの環境の現状と施策の進行状況について公表することにより、情報の公開と共有を図るものです。

自然の恵みを取り入れた、健康に生活できる、一生を安心して暮らせるふるさと

望ましい環境像の実現

### 生活環境

健康に生活できる  
きれいなまち

空気

深呼吸したくなるまち

水

きれいな川のあるまち

音

静けさを感じるまち

美化

散乱ごみのないきれいなまち

### 自然環境

人と自然が共生する  
うるおいのあるまち

緑

緑豊かなまち

生物

多様な生物とのふれあいのあるまち

景観

魅力ある街並み

安全

安心して生活できるまち

産業

農・工・商の調和するまち

基地

航空機騒音のないまち

都市空間

都市空間のゆとりのあるまち

### 地球環境

地球環境への負荷の  
少ないまち

地球環境

地球市民としての自覚を持って  
行動するまち

### 循環

循環を基調とした  
社会システムのあるまち

水循環

水との親しみのあるまち

資源

物質循環のなされているまち

エネルギー

エネルギーを有効に利用するまち

### 環境保全活動

気づき知り環境を守る  
市民の連帯のあるまち

環境保全活動

環境にやさしい市民のまち

《指標項目についての進捗状況の一覧》

●目標値は令和9年度のものです。

各環境要素の評価一覧

<※着色部は目標未達>

環境要素	指標項目	現況値及び目標値	R1年度数値	R2年度数値
①空気	二酸化窒素濃度	28年値 0.032ppm	0.028ppm	0.030ppm
		目標値 0.04ppm以下		
②水	BOD (生物化学的酸素要求量)	28年値 境川 1.6mg/1 引地川 1.4mg/1	境川 1.6mg/1	境川 1.9mg/1
		目標値 境川 3.0mg/1以下 引地川 2.0mg/1以下	引地川 1.3mg/1	引地川 1.3mg/1
③音	市内全調査地点で環境基準をクリア	28年値 50% 目標値 100%	67%	67%
④美化	「散乱ごみの少ないきれいなまち」だと思ふ市民割合	29年値 23%	市民 58%	市民 51%
		目標値 50%	事業者 57%	事業者 50%
⑤緑	保全緑地契約面積等	28年値 26.2ha	26.2ha	26.4ha
		目標値 26.2ha		
⑥生物	「身近に多くの種類の動植物とのふれあいのあるまち」だと思ふ市民割合	29年値 33%	市民 41%	市民 38%
		目標値 50%	事業者 37%	事業者 35%
⑦景観	「魅力ある街並みを持っているまち」だと思ふ市民割合	28年値 生息を確認	生息を確認	生息を確認
		目標値 生息を確認		
⑧安全	各環境中の基準濃度を超過した有害化学物質数	29年値 11%	市民 29%	市民 31%
		目標値 40%	事業者 23%	事業者 25%
⑨産業	環境に配慮した事業活動を行っている事業者割合	28年値 3種類	3種類	3種類
		目標値 0種類		
⑩基地	環境に配慮した事業活動を行っている事業者割合	29年値 23%	57%	51%
		目標値 50%		
⑪都市空間	航空機騒音に係る環境基準の達成率	28年値 0%	60%	60%
		目標値 100%		
⑫地球環境	航空機騒音を削減させるよう取り組む	28年値 取組んでいる	取組んでいる	取組んでいる
		目標値 取組んでいる		
⑬都市空間	一人当たりの都市公園等面積	28年値 6.63㎡	6.67㎡	6.95㎡
		目標値 6.8㎡以上		
⑭地球環境	温室効果ガス排出量削減率(2013年度比)	2013年値 (1390.3千t-CO <sub>2</sub> )	20.9%	-
		目標値 19.5%削減		
⑮水循環	雨水貯留槽購入費補助申請累積件数	28年値 425件(基)	454件 (7件)	462件 (8件)
		目標値 650件(基)		
⑯資源	資源化率	28年値 26.7%	28.2%	29.6%
		目標値 32.2%		
⑰市民一人一日当たりの家庭系ごみ排出量	市民一人一日当たりの家庭系ごみ排出量	28年値 435g	424g	438g
		目標値 438g未満		
⑱エネルギー	住宅用太陽光発電システム補助累積件数	28年値 1408件	1723件 (112件)	1789件 (66件)
		目標値 2500件		
⑳環境保全活動	やまとみどりの学校プログラムへの参加校	28年値 28校	28校	22校
		目標値 市内全校(28校)		
㉑環境保全活動	「環境に配慮したり、環境保全活動に取り組む人が多い」と感じる市民割合	28年値 20%	市民 42%	市民 41%
		目標値 50%		

令和2年度時点で目標未達項目は10項目、令和元年数値に対して同水準にある。

④美化、⑥生物、⑦景観、⑨産業、⑱環境保全活動のアンケート回答はH29年度まで「思う、どちらともいえない、思わない」の3段階で「思う」の割合。H30年度からは「思う、やや思う、あまり思わない、全く思わない」の4段階とし、「思う、やや思う」の割合。

⑫地球環境の温室効果ガス排出量の推計は、統計資料などを用いて作業する必要があることから、把握できる排出量の情報は2年遅れとなります。

⑬水循環、⑮エネルギーは累計値となっており、()内は単年当たりの件数

## 生活環境

### 1. 「空気」

目 標 : 深呼吸したくなるまち

数値目標 : 二酸化窒素濃度 0.04ppm 以下

人の健康を保護するうえで維持されることが望ましい国の環境基準を基に設定したもので、環境基準同様に、日平均値を一年分並べて低い方から98%に相当する値

項 目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標値
二酸化窒素濃度[ppm]	0.032	0.034	0.033	0.028	0.030	0.04

【本年度の評価】

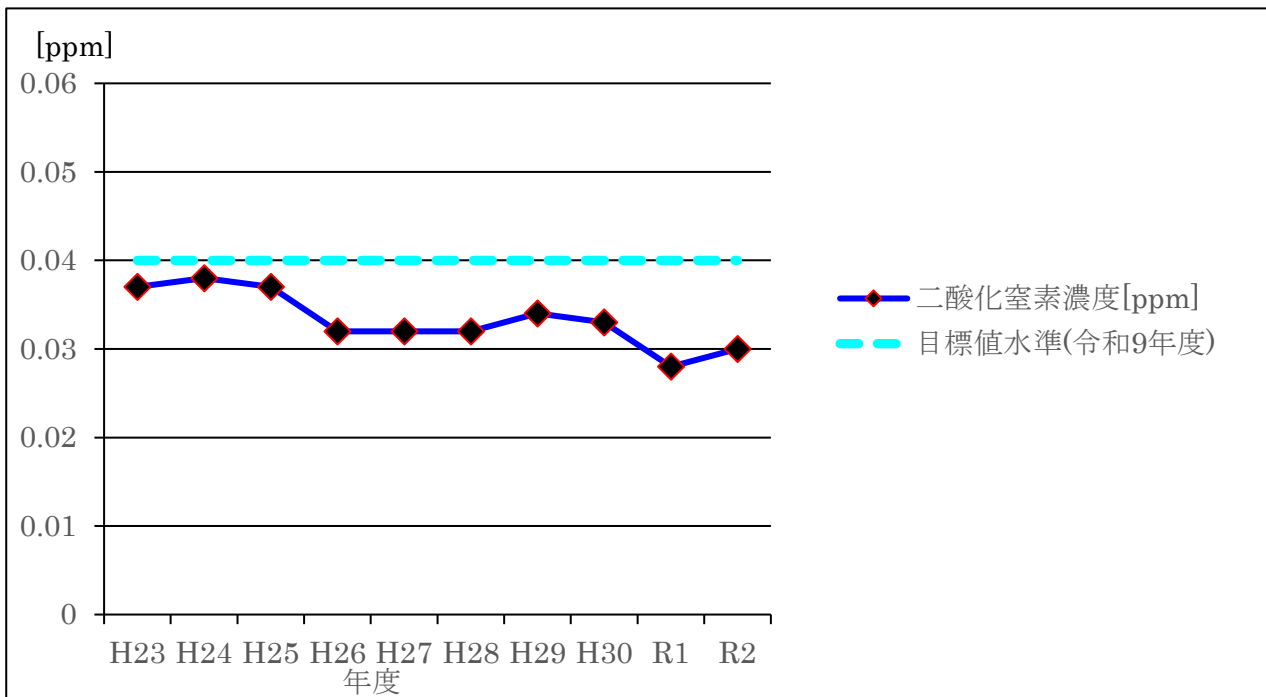
目標を達成した

【評価の理由】

二酸化窒素濃度が目標値を下回ったため

【目標の確認のための取組】

常時監視測定局(大和市役所)における二酸化窒素濃度年間98%値(環境基準)の経年変化を測定



#### 《令和2年度の取組事例》

- ・コミュニティバス「のろっと」及び「やまとん GO」、西鶴間・上草柳地域の協働事業「のりあい」の運行により、交通利便性の向上が図られた。
- ・247mの歩行者空間を整備した。
- ・駐輪場シェアサービス「みんちゅう」登録台数は147台あった。
- ・上草柳トラックステーションにてアイドリングストップのステッカーを配布し、啓発活動を実施した。また、開発協議会で19件の駐車場管理者に対し、アイドリングストップの周知について指導した。
- ・簡易測定法による窒素酸化物濃度の測定を年2回市内32か所で実施した。
- ・特定建設作業の届出(振動)31件に対し、指導を行った。また、工場・事業所及び工事に伴う悪臭・粉じん苦情に対し指導を行った。

## 生活環境

### 2. 「水」

目 標：きれいな川のあるまち

数値目標：BOD(生物化学的酸素要求量)

境川 3.0mg/l 以下・引地川 2.0mg/l 以下

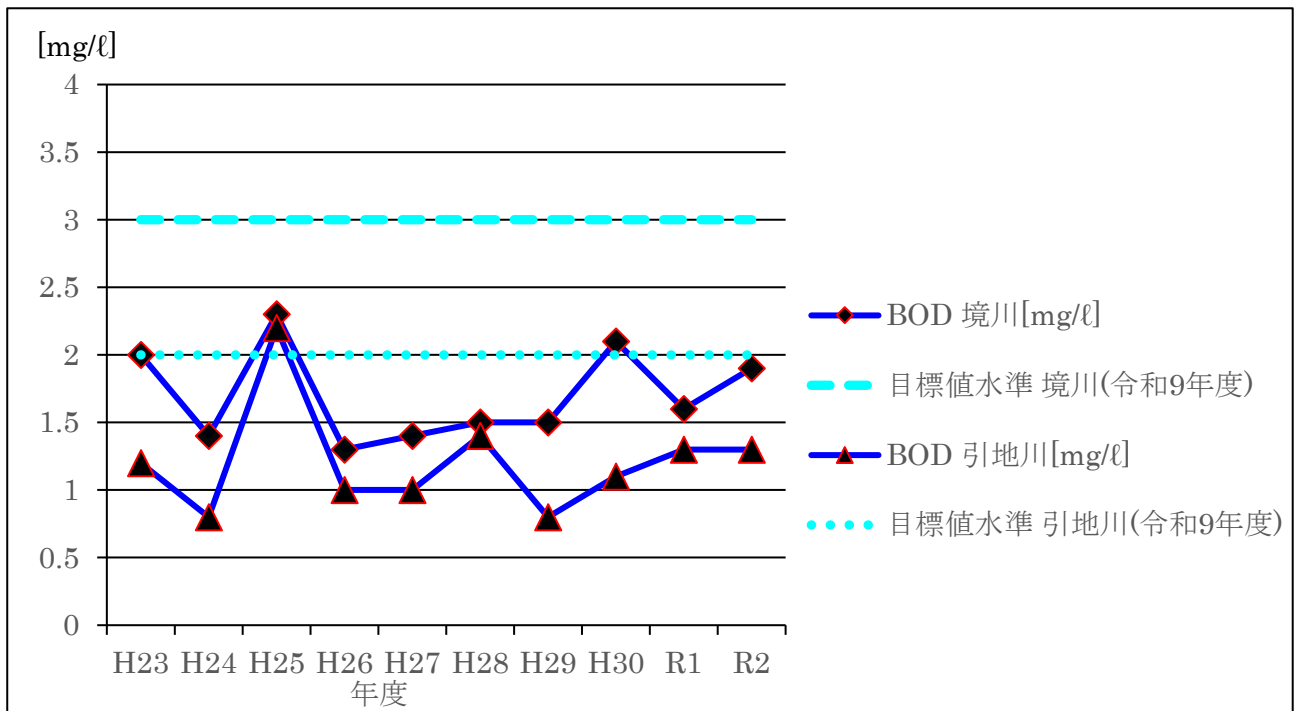
生活環境を保全するうえで維持されることが望ましい国の環境基準を基に設定したもので、市が独自に行う水質調査の平均値による値

項 目	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	目標値
BOD 境川[mg/l]	1.5	1.5	2.1	1.6	1.9	3.0
BOD 引地川[mg/l]	1.4	0.8	1.1	1.3	1.3	2.0

【本年度の評価】 目標を達成した

【評価の理由】 BODが基準値以下になり目標を達成したため

【目標の確認のための取組】 河川の水質測定



#### 《令和 2 年度の取組事例》

- ・水質汚濁防止法及び神奈川県生活環境の保全等に関する条例に基づき、10 事業所についてのべ 17 件の排水の水質検査を実施した。
- ・特定事業場への立入検査を 137 件実施した。
- ・下水道供用開始区域の公共下水道未接続家屋へ水洗便所への改造を促した。
- ・下水道出前授業(11 校)及び、教材等を配布し各学校の教員による授業実施(8 校)により生活排水や下水道の役割についての意識啓発を行った。
- ・側溝や河川の清掃を実施した。(2,526m)
- ・河川水質調査(境川 3 地点、引地川 2 地点)を実施した。

3. 「音」

目 標： 静けさを感じるまち

数値目標： 市内全調査地点で環境基準をクリア

市内全道路騒音調査地点における、騒音に係る環境基準の達成率

項 目	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	目標値
騒音に係る環境基準の達成率[%]	50	67	50	67	67	100

【本年度の評価】

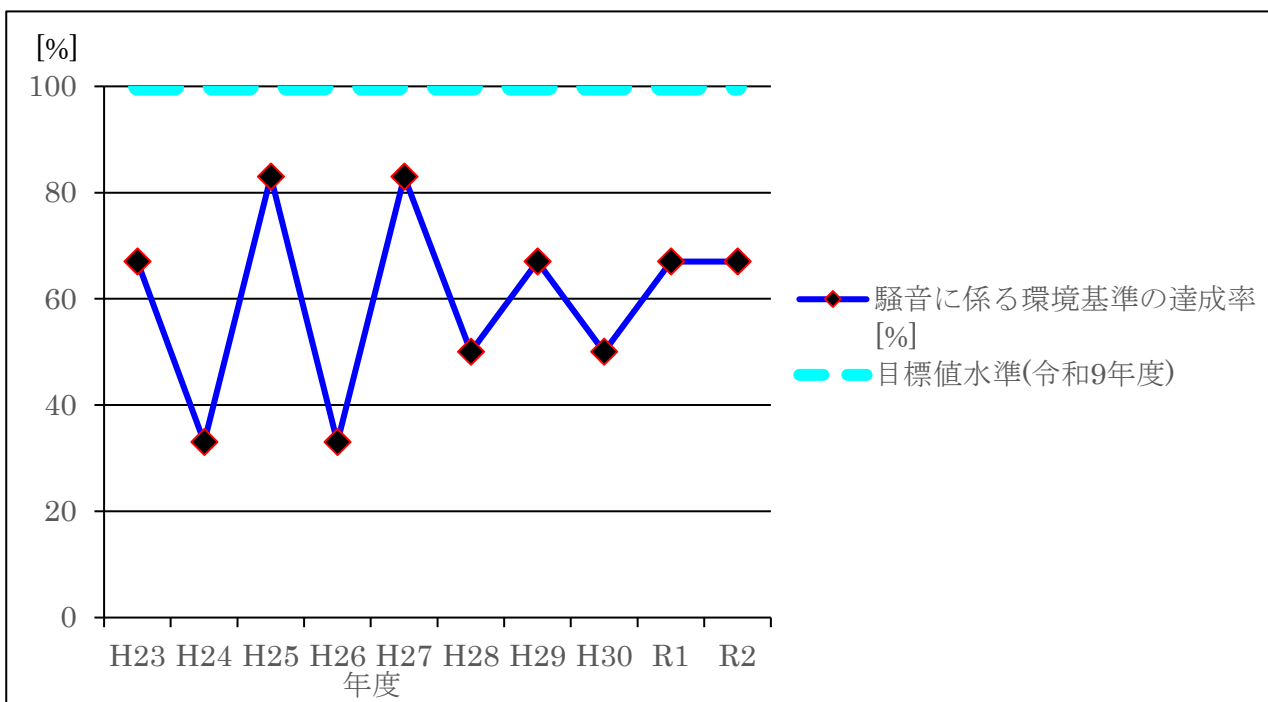
目標を達成せず昨年度と比較し同等だった

【評価の理由】

環境基準を満たしている地点数が横ばいのため

【目標の確認のための取組】

幹線交通を担う道路における騒音測定



《令和 2 年度の取組事例》

- ・神奈川県生活環境の保全等に関する条例に基づく許可申請事において、事業者に対し、騒音・振動防止対策を指導した。また、工場・事業所から発生した騒音・振動苦情 4 件について事業者に指導を行った。
- ・屋外作業に伴う騒音・振動苦情 7 件に対して事業者に指導を行った。
- ・建設作業に伴う騒音・振動苦情 5 件について実態を調査し、事業者を指導した。
- ・苦情のあった音響機器(カラオケ)を使用した営業店 6 件について事業者を指導した。
- ・ホームページで生活騒音防止に関する意識啓発活動を行った。
- ・主要な幹線道路沿い 6 地点で道路交通騒音の測定を実施した。
- ・1,447 m<sup>2</sup>の低騒音舗装(排水性舗装)を整備した。

生活環境

4.「美化」

目 標：散乱ごみのないきれいなまち

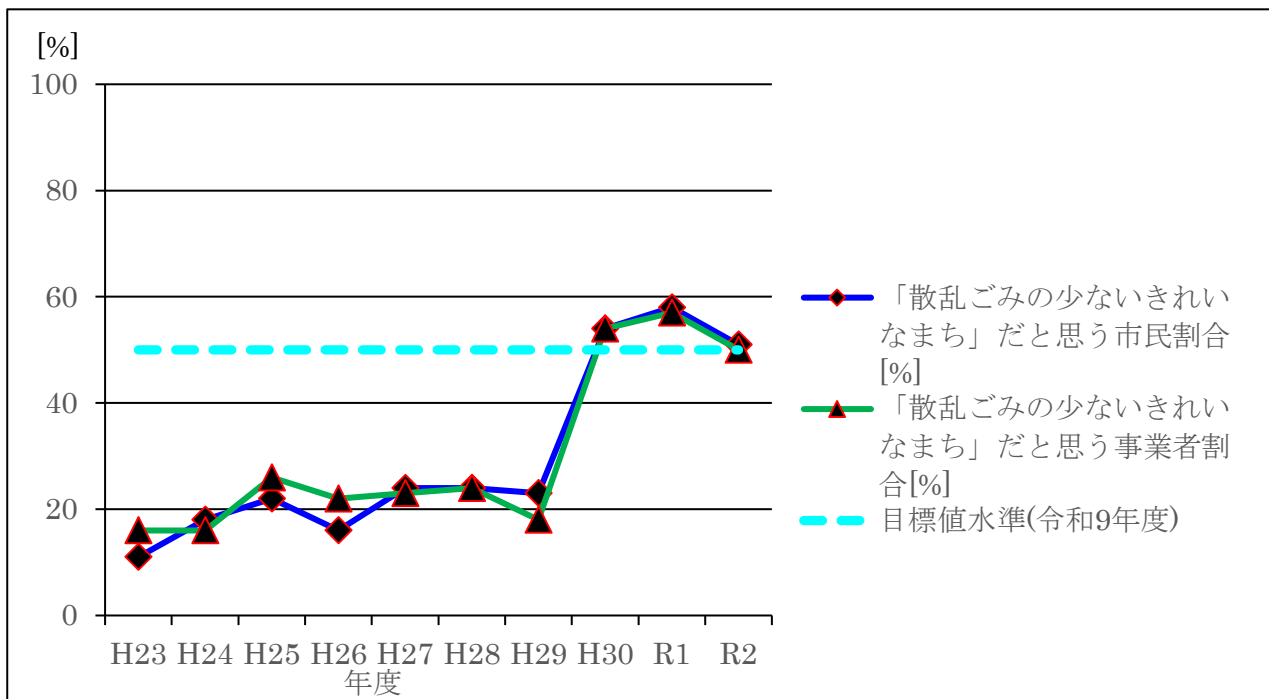
数値目標：「散乱ごみの少ないきれいなまち」だと思ふ市民割合 50%

市が行う環境に関するアンケート調査結果

項 目	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	目標値
大和市の「美化」に関する環境が良いと思ふ市民の割合[%]	(24)	(23)	54	58	51	50
大和市の「美化」に関する環境が良いと思ふ事業所の割合[%]	(24)	(18)	54	57	50	50

※アンケートの回答は H29 年度まで「思う、どちらともいえない、思わない」の 3 段階で「思う」の割合。H30 年度からは「思う、やや思う、あまり思わない、全く思わない」の 4 段階とし、「思う、やや思う」の割合。このため、H29 年度までの数値は参考値として ( ) でくくりまします。

- 【本年度の評価】 目標を達成した
- 【評価の理由】 市民、事業者ともに「美化」に関する環境が良いと思ふ割合が目標値に達しているため
- 【目標の確認のための取組】 市民・事業者アンケートの実施



《令和 2 年度の取組事例》

- ・不法投棄防止の啓発看板等の作成やパトロールを行うとともに、ボランティア袋を市民に配布し散乱ごみや不法投棄防止のための意識啓発を行った。
- ・悪質な不法投棄者に対しては、警察と協力して対応した。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、清掃の日、例月まち並み清掃、美化推進月間クリーンキャンペーン、環境ポスターの募集や優秀な作品を表彰及び展示等を中止した。



## 自然環境

### 5. 「緑」

目 標 : 緑豊かなまち

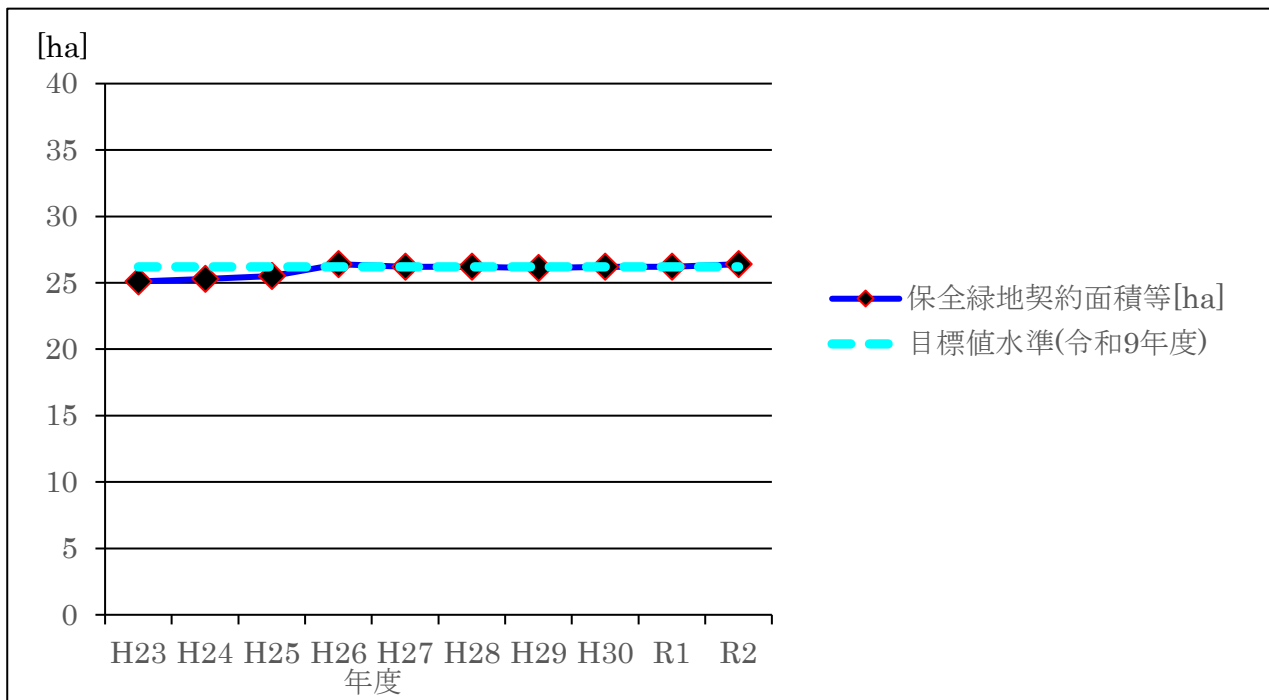
数値目標 : 保全緑地契約面積等 26.2ha

項 目	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	目標値
保全緑地契約面積等[ha]	26.2	26.1	26.2	26.2	26.4	26.2

【本年度の評価】 目標を達成した

【評価の理由】 保全緑地契約面積等が維持できているため

【目標の確認のための取組】 保全緑地契約面積等を把握



#### 《令和 2 年度の実施事例》

- ・前年度よりも 0.2ha 多く保全緑地面積を確保した。
- ・新型コロナウイルスの拡大防止のため、緑のカーテン作り方教室は中止した。
- ・住宅地における接道部緑化(生垣等設置)に対して助成を行ったが、目標に届かなかった。
- ・公園が所在する自治会に、自主的な緑化活動グループの設置を働きかけ、より良い支援活動を実施できるよう努めた。



自然環境

6. 「生物」

目 標：多様な生物とのふれあいのあるまち

数値目標：「身近に多くの種類の動植物とのふれあいのあるまち」だと思ふ市民割合  
50%

市が行う環境に関するアンケート調査結果

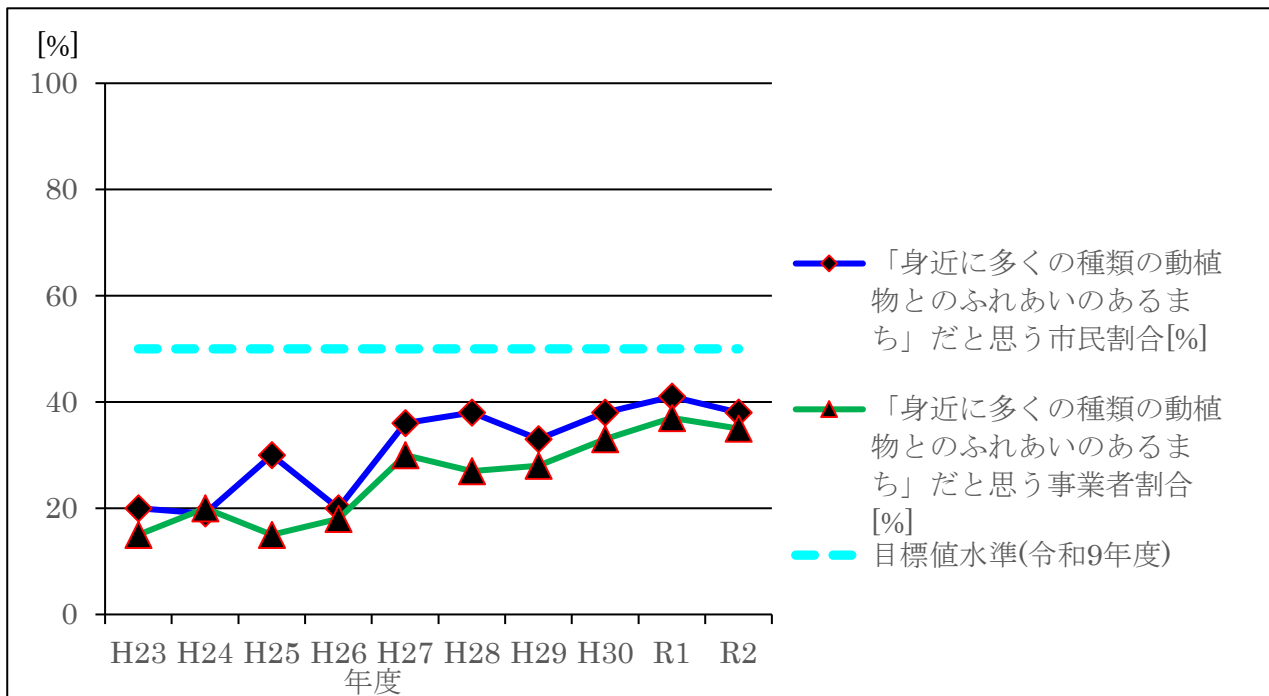
項 目	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	目標値
大和市の「生物」に関する環境が良いと思ふ市民の割合[%]	(38)	(33)	38	41	38	50
大和市の「生物」に関する環境が良いと思ふ事業者の割合[%]	(27)	(28)	33	37	35	50

※アンケートの回答は H29 年度まで「思う、どちらともいえない、思わない」の 3 段階で「思う」の割合。H30 年度からは「思う、やや思う、あまり思わない、全く思わない」の 4 段階とし、「思う、やや思う」の割合。このため、H29 年度までの数値は参考値として ( ) でくります。

【本年度の評価】 市民割合、事業者割合ともに目標を達成せずわずかに減少した

【評価の理由】 市民、事業者ともに「生物」に関する環境が良いと思ふ割合が減り目標から遠ざかったため

【目標の確認のための取組】 市民・事業者アンケートの実施



## 自然環境

### 6. 「生物」

目 標：多様な生物とのふれあいのあるまち

数値目標：市内でミンミンゼミの生息が継続的に確認されていること

自然度を表すことのできる生物としてミンミンゼミの生息がぬけがら採取から確認できたかどうか

項 目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標値
市内でミンミンゼミの生息が継続的に確認されていること (ミンミンゼミが全体に占める割合 %)	○(9.5)	○(11.3)	○(13.2)	○(13.5)	○	生息を 確認

【本年度の評価】 目標を達成した

【評価の理由】 例年同様にミンミンゼミが確認されている

【目標の確認のための取組】 市民環境調査(セミのぬけがら調査)による調査

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により調査は中止し、生息確認は市職員が行った。

#### 《令和2年度の取組事例》

- ・市内に生息する野生動植物を調査する市民環境調査として、4～9月にセミのぬけがら調査・ツバメ情報調査を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。
- ・ホームページやリーフレット等を利用し、継続的に野生動植物保護に関する意識啓発を図った。
- ・緑地の保全管理を適切に行い、野生動植物の生息・育成地の保全を図った。

## 都市環境

### 7. 「景観」

目 標：魅力ある街並み

数値目標：「魅力ある街並みを持っているまち」だと思う市民割合 40%

市が行う環境に関するアンケート調査結果

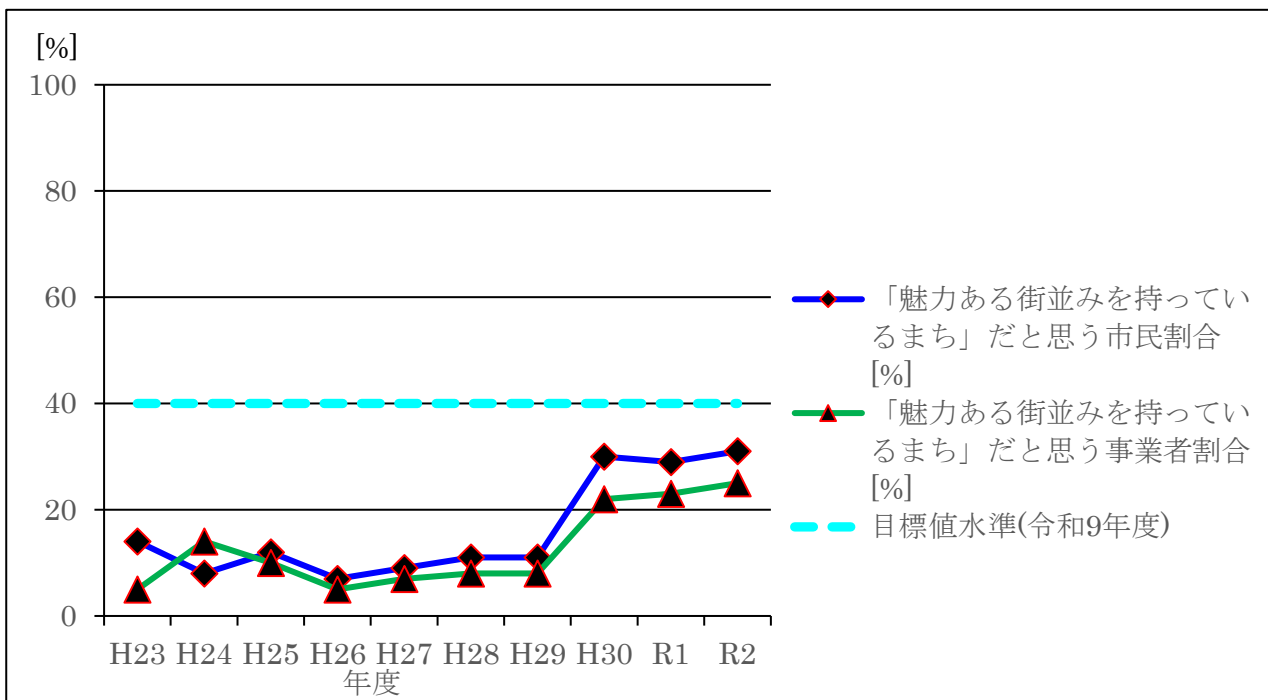
項 目	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	目標値
大和市の「景観」に関する環境が良いと思う市民の割合[%]	(11)	(11)	30	29	31	40
大和市の「景観」に関する環境が良いと思う事業者の割合[%]	(8)	(8)	22	23	25	40

※アンケートの回答は H29 年度まで「思う、どちらともいえない、思わない」の 3 段階で「思う」の割合。H30 年度からは「思う、やや思う、あまり思わない、全く思わない」の 4 段階とし、「思う、やや思う」の割合。このため、H29 年度までの数値は参考値として ( ) でくります。

【本年度の評価】 市民割合、事業者割合ともに目標を達成せず昨年度と同等だった

【評価の理由】 「景観」に関する環境が良いと思う割合が昨年度と同等だったため

【目標の確認のための取組】 市民・事業者アンケートの実施



#### 《令和 2 年度の取組事例》

- ・景観づくりに関する普及啓発を進めるため、街づくり学校を実施した。
- ・247m の歩行者空間を整備し、ゆとりある歩道の確保や、歩道と車道の区画部の改善を図った。

## 都市環境

### 8. 「安全」

目 標：安心して生活できるまち

数値目標：環境中の基準濃度を超過した有害化学物質数 ゼロ

人の健康を守るために望ましい環境基準等を定められた有害物質を対象に市の  
大気、水質、地下水についての調査で環境基準等を超過した物質の数

項 目	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	目標値
環境中の基準濃度を超過した有害化学物質数[種類]	3	3	3	3	3	0

【本年度の評価】

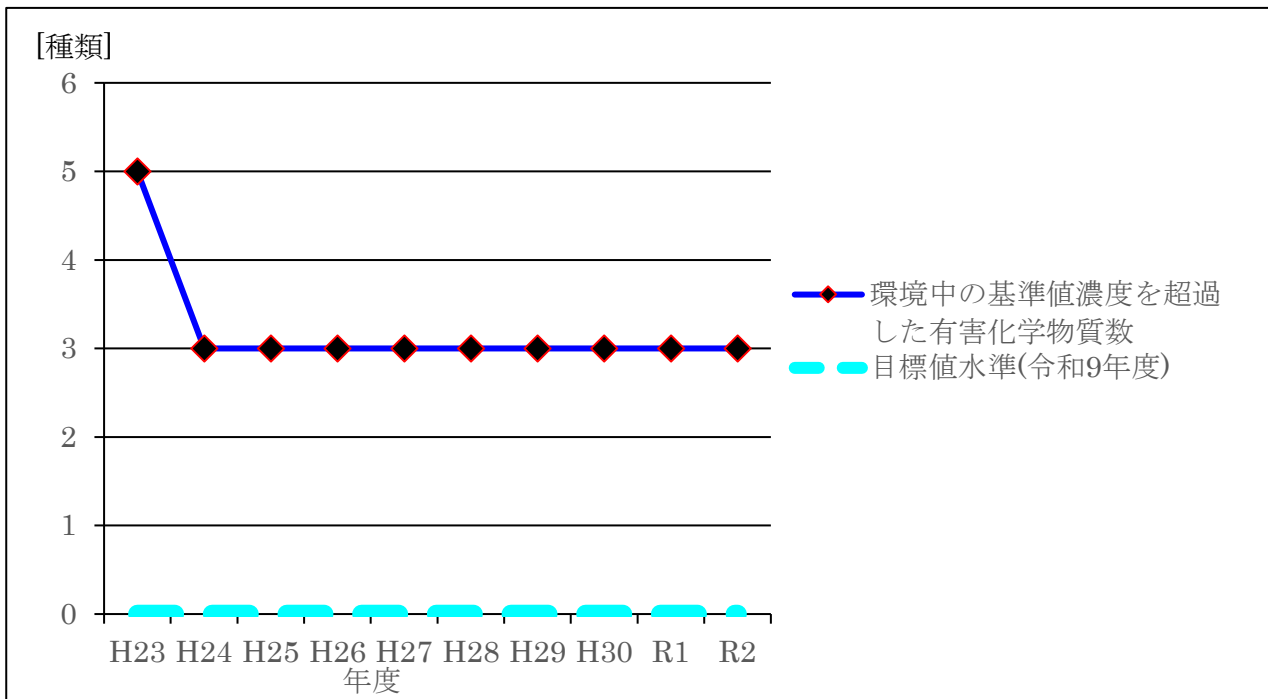
目標を達成せず昨年度と同等だった

【評価の理由】

有害物質数が昨年度と同じだったため

【目標の確認のための取組】

各環境中の基準濃度と超過した有害化学物質数の測定



《令和 2 年度の取組事例》

- ・0.78ha の雨水整備を行った。
- ・耐震化の必要性の周知を行うとともに、木造建築物の耐震診断、耐震改修の補助により、住宅の耐震化を進めた。
- ・防災マップを市民に提供するほか、コロナ対策を踏まえた避難所等の運営に関する講義をはじめ、各自主防災会長へ資料を配付するなど防災に関する意識啓発を行った。
- ・市内 11 か所の 100 トン水槽の巡回点検を水道局とともに年 2 回実施し、災害時の飲料水確保に努めた。
- ・台風や集中豪雨時に、PS メール、やまと SOS アプリで情報を提供した。
- ・大気 1 地点(年 2 回)、河川(水、底質)、土壌のダイオキシン類濃度測定を実施した。
- ・5 事業所について立入調査を実施し、化学物質に対する情報提供や、使用者に対する調査を実施した。

**都市環境**

9. 「産業」

目 標：農・工・商の調和するまち

数値目標：環境に配慮した事業活動を行っている事業者割合 50%

市が行う環境に関するアンケート調査結果

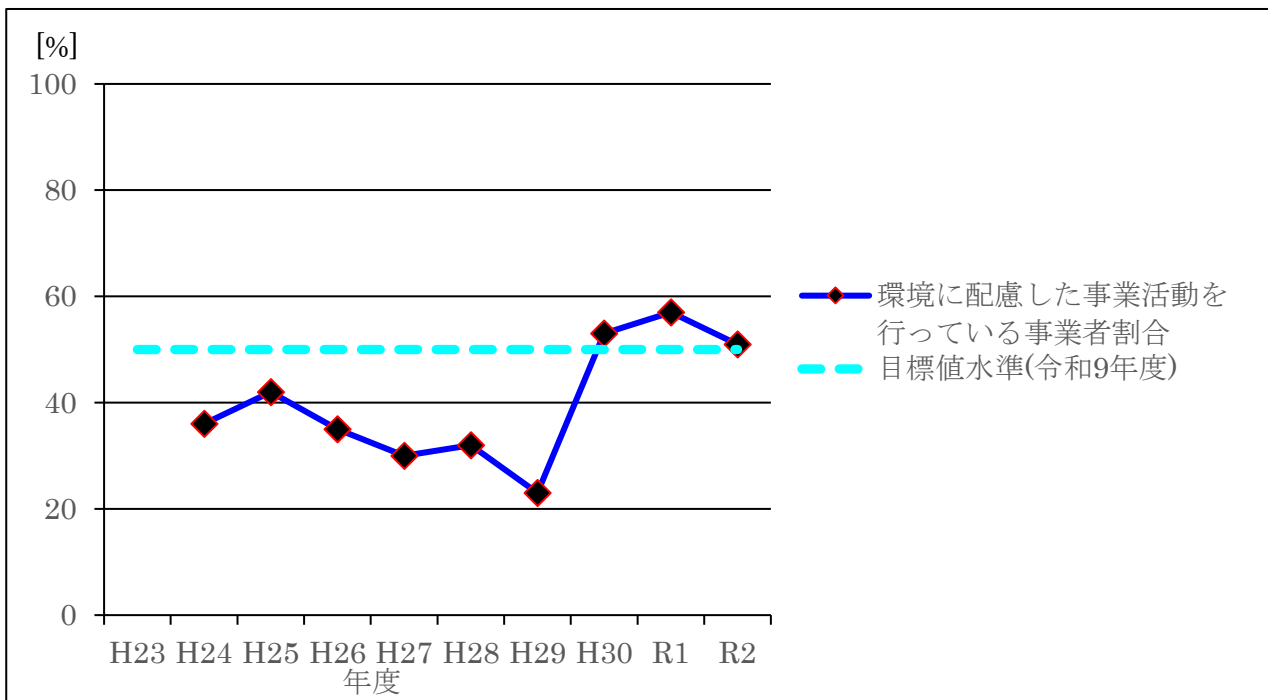
項 目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標値
環境に配慮した事業活動を行っている事業者割合[%]	(32)	(23)	53	57	51	50

※アンケートの回答は H29 年度まで「大切であり実際に取り組んでいる、大切とは思いが取組みはしていない、大切とは思わない」の3段階で「大切であり実際に取り組んでいる」の割合。H30年度からは「実施している、やや実施している、あまり実施していない、まったく実施していない」の4段階とし、「実施している、やや実施している」の割合。このため、H29年度までの数値は参考値として（）でくくります。

【本年度の評価】 目標を達成した

【評価の理由】 環境に配慮した事業活動を行っている割合が目標に達しているため

【目標の確認のための取組】 市民・事業者アンケートの実施



《令和2年度の取組事例》

- ・土づくり等を通じて化学肥料や農薬の使用等による環境負荷の軽減に配慮した持続的な農業を推進した。
- ・農業経営の相談、各種研修会の開催や情報交換等の周知等を行い、農業者の育成に努めた。
- ・グリーン購入などのパンフレット配架等により、情報提供を行った。

**都市環境**

10.「基地」

目 標：航空機騒音のないまち

数値目標：航空機騒音に係る環境基準の達成率 100%

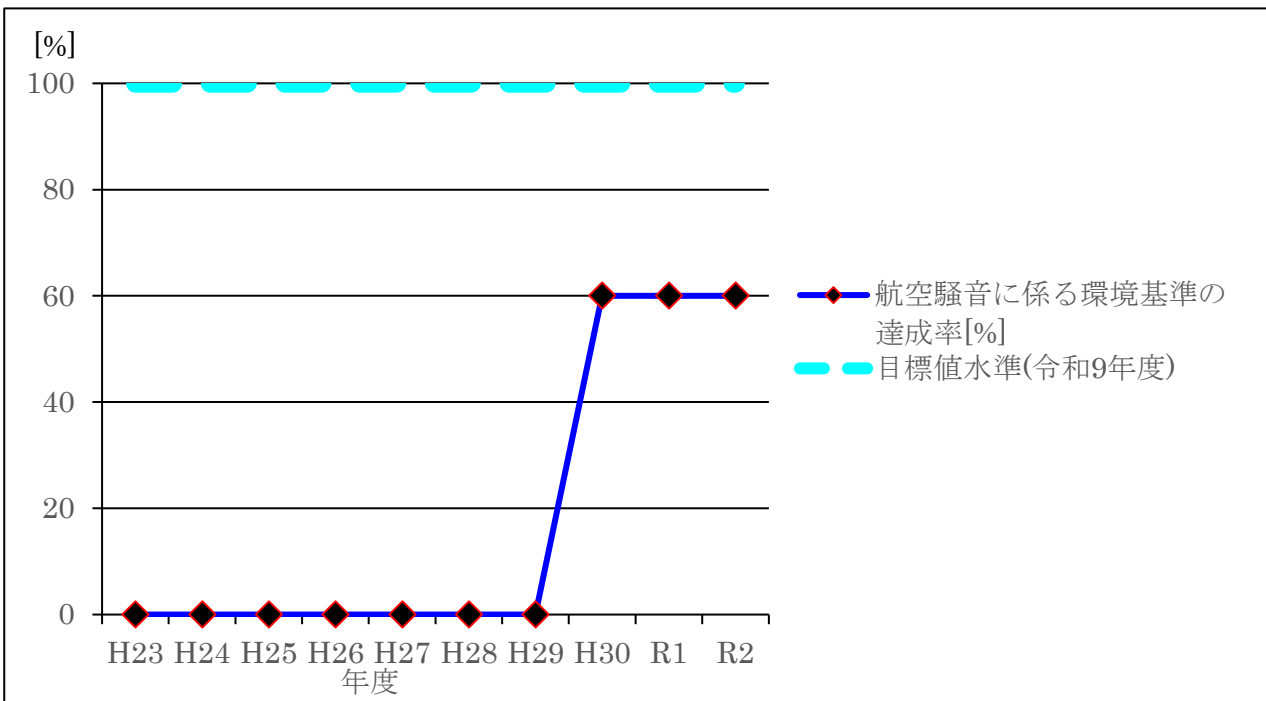
市内全域での「航空機騒音に係る環境基準」の達成率

項 目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標値
航空機騒音に係る環境基準の達成率[%]	0	0	60	60	60	100

【本年度の評価】 目標は未達成のため、引き続き取り組む必要がある

【評価の理由】 目標未達成のため

【目標の確認のための取組】 航空機騒音の測定



**都市環境**

10. 「基地」

目 標：航空機騒音のないまち

数値目標：航空機騒音を遡減させるよう取り組む

航空機騒音を遡減させるよう取り組んだかどうか

項 目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標値
航空機騒音を遡減させるよう 取り組む	取り組ん でいる	取り組ん でいる	取り組ん でいる	取り組ん でいる	取り組ん でいる	取り組ん でいる

【本年度の評価】 目標を達成した

【評価の理由】 例年同様に航空機騒音を遡減させるよう取り組んでいる

【目標の確認のための取組】 航空機騒音の軽減に向けたはたらきかけ

《令和2年度の取組事例》

- ・大和市、大和市基地対策協議会、厚木基地騒音対策協議会、神奈川県基地関係縣市連絡協議会による要請活動を行うにあたり、現状を踏まえ要請内容を検討した。
- ・県と市で設置している騒音計による騒音測定を継続実施した。
- ・基地周辺(2か所)で地下水調査を実施したところ、環境基準を満足していた。
- ・基地周辺(3か所)で大気中の窒素酸化物の簡易測定を実施した。



## 都市環境

### 11. 「都市空間」

目 標：都市空間のゆとりのあるまち

数値目標：一人当たりの都市公園等面積 6.8 m<sup>2</sup>以上

項 目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標値
一人当たりの都市公園等面積[m <sup>2</sup> ]	6.63	6.62	6.62	6.67	6.95	6.8

【本年度の評価】

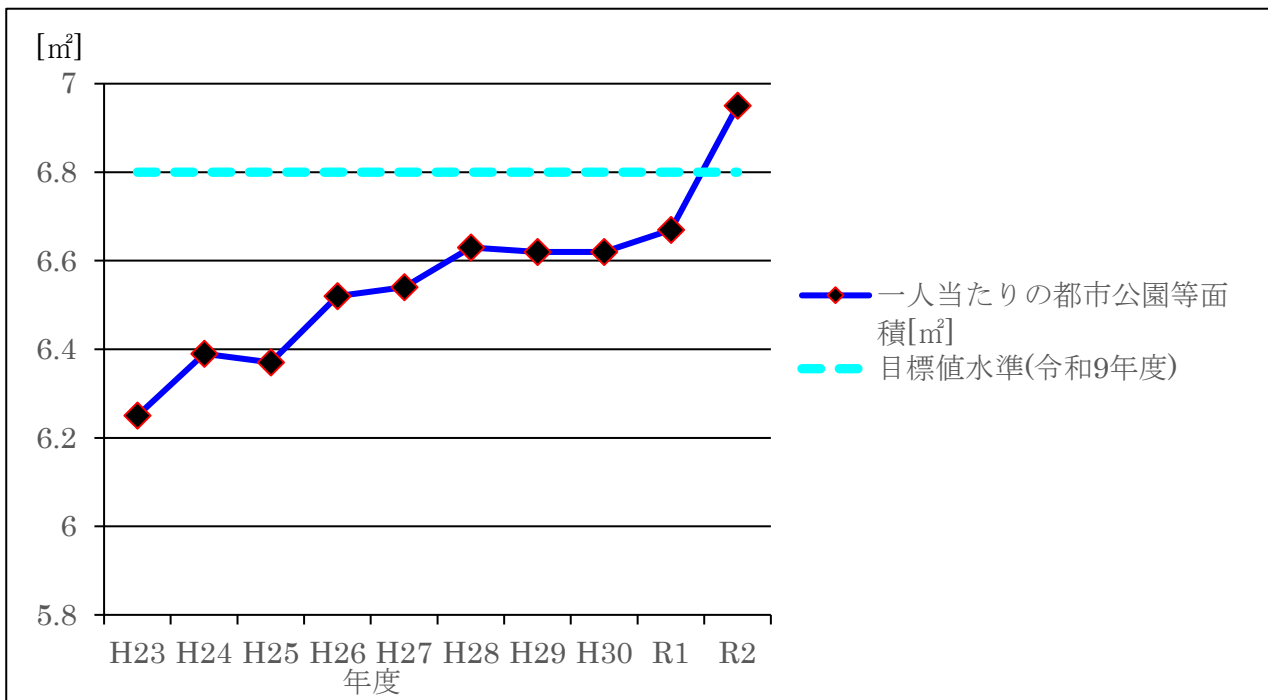
目標を達成した

【評価の理由】

基幹公園面積が増加したため

【目標の確認のための取組】

「緑の基本計画」の目標水準に沿って取り組んだ



#### 《令和2年度の取組事例》

- ・生活道路等において、速度抑制等の交通安全対策を81か所実施した。
- ・247mの歩行者空間を整備した。
- ・整備計画に従いバリアフリー整備を実施した。
- ・各種交通安全教室や街頭キャンペーン等により交通安全の啓発活動を実施した。
- ・令和元年度から継続して(仮称)ふれあいの森草柳第2広場の整備を行った。
- ・令和2年度から令和3年度までやまと公園の大規模改修事業を行う。
- ・地域住民の良好な生活環境を確保するため、開発等の事業に対する指導を行った。

**地球環境**

12. 「地球環境」

目 標：地球市民としての自覚を持って行動するまち

数値目標：温室効果ガス排出量 19.5%削減(2013年度比)

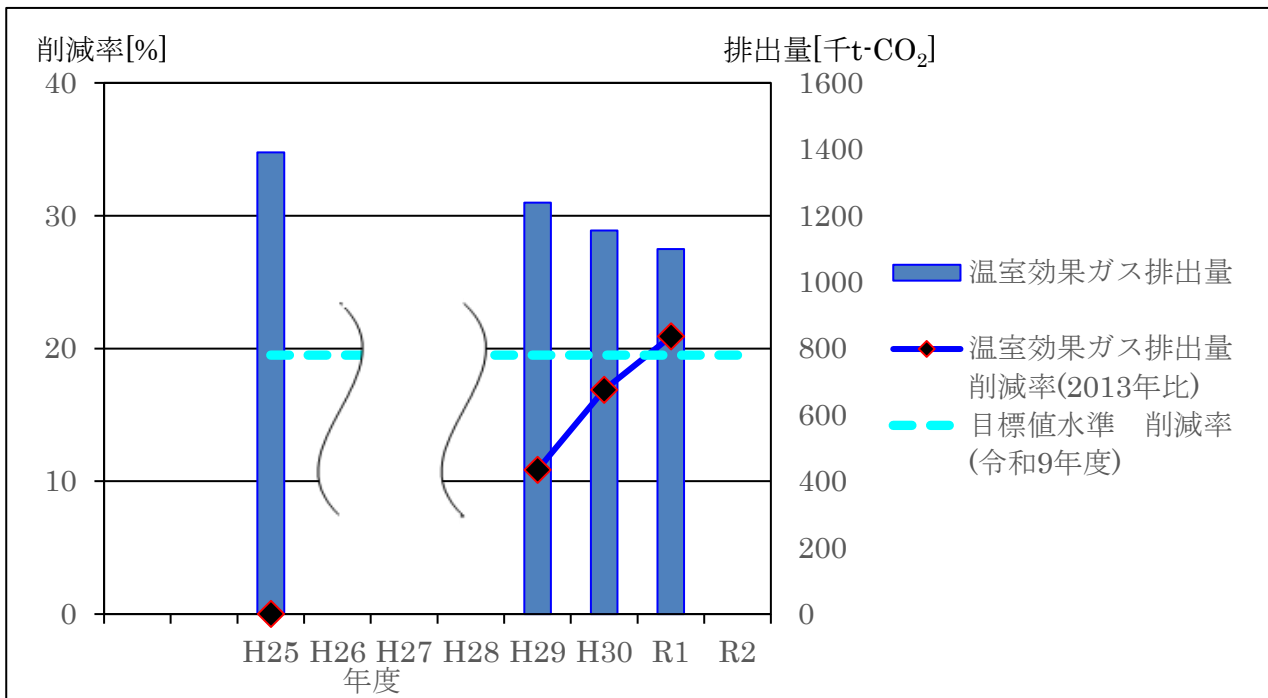
地球温暖化を抑制するため「温室効果ガス排出量」を指標とし、2013年度を基準とした削減率

項 目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標値
温室効果ガス排出量削減率[%]	-	10.9	16.9	20.9	-	19.5

※温室効果ガス排出量は、「地方公共団体実行計画（区域施策編）策定・実施マニュアル（算定手法編）Ver1.1」（令和3年3月、環境省）に基づいて算定し直しているため、旧計画の公表の結果とは異なります。平成28年度以前は算出基準が異なるので表記は平成29年度以降になります。また、家庭部門の使用電力量について、より実情に即した推計方法で算出し直したため、令和2年度までの報告結果とは異なります。

※温室効果ガス排出量の推計は、統計資料などを用いて作業する必要があることから、把握できる排出量の情報は2年遅れとなります。

- 【本年度の評価】 目標を達成した
- 【評価の理由】 令和元年度推計値が目標値に達したため
- 【目標の確認のための取組】 地球温暖化対策実行計画(区域施策編)による推計



《令和2年度の取組事例》

- ・ホームページ等で、大和市環境基本計画及び大和市環境配慮指針の普及啓発を行った。
- ・熱中症・感染症予防に向け多くの手段を通じて普及啓発を行った。
- ・感染症について、市民に正しい知識を普及啓発することで、感染症へかかるリスク、重症化するリスクの軽減をはかった。

**循環**

13.「水循環」

目 標：水との親しみのあるまち

数値目標：雨水貯留槽購入費補助申請累計件数 650 件

項 目	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	目標値
雨水貯留槽購入費補助申請 累計件数[件]	425	436	447	454	462	650

**【本年度の評価】**

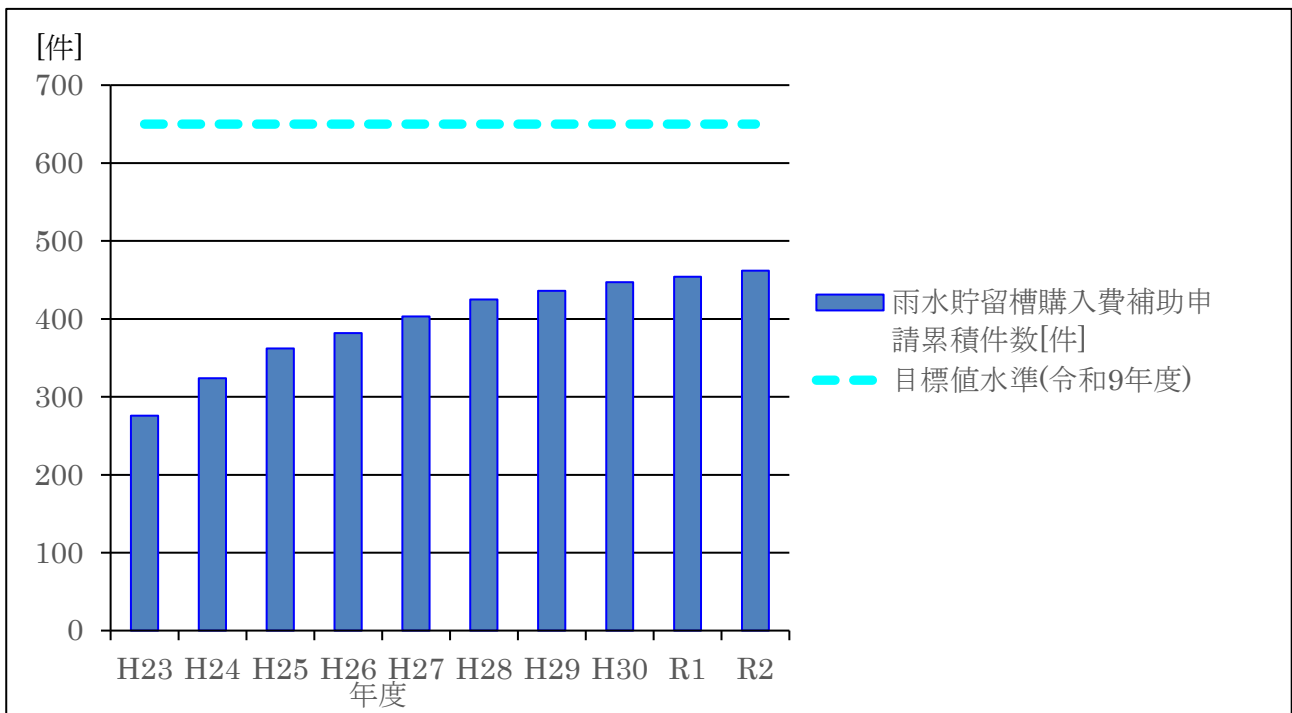
年当たりの申請件数が目標を達成していない

**【評価の理由】**

令和9年度累計目標達成には年間20件程度の申請が必要となるため

**【目標の確認のための取組】**

雨水貯留槽購入費用補助申請件数(累計)



《令和 2 年度の取組事例》

- ・雨水貯留槽購入費補助金交付制度により、雨水貯留槽設置補助金を交付した。(8 件)
- ・生活道路整備工事で 1134 m<sup>2</sup>の透水性舗装を実施した。
- ・立ち入りした 5 事業所について、神奈川県生活環境の保全等に関する条例、水質汚濁防止法、土壌汚染対策法に基づき、地下水汚染の未然防止等について指導した。
- ・市内 12 地点で地下水水質調査を実施したところ、継続監視調査 2 地点で環境基準を超過していた。

循環

14.「資源」

目 標：物質循環のなされているまち

数値目標：資源化率 32.2%以上

家庭と処理手数料を払っている事業所からの排出総量に対する資源化量の割合として計算された資源化率

項 目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標値
資源化率[%]	26.7	27.8	27.7	28.2	29.6	32.2

【本年度の評価】

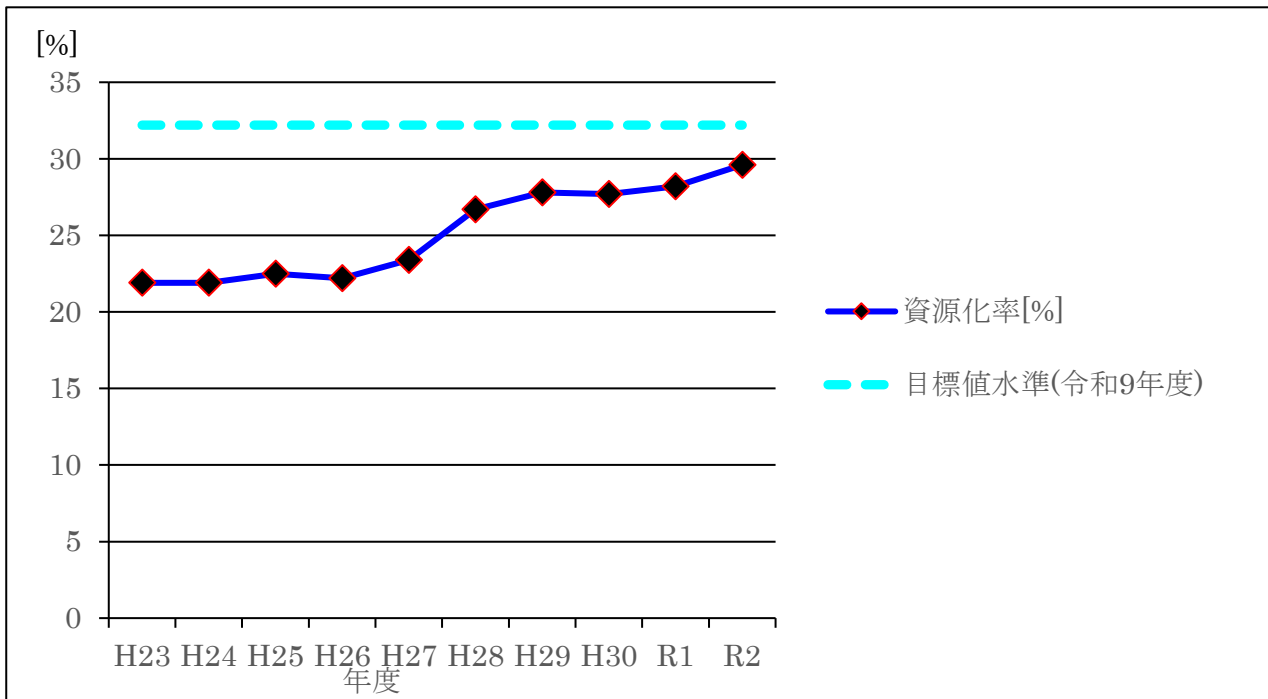
目標は未達成だが目標値に近づいた

【評価の理由】

資源分別回収について定着しつつあるため数値は微増傾向

【目標の確認のための取組】

総ごみ排出量及び総資源化量の集計



**循環**

14.「資源」

目 標：物質循環のなされているまち

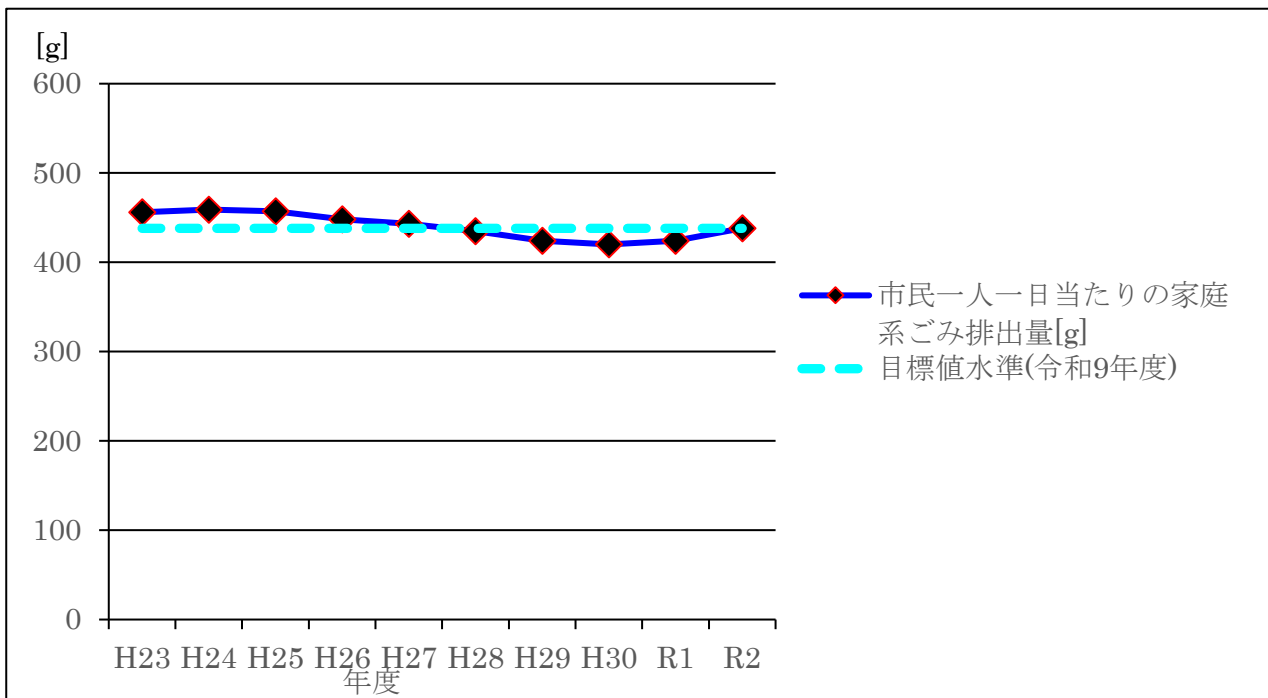
数値目標：市民一人一日当たりの家庭系ごみ排出量 438g 未満

項 目	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	目標値
市民一人一日あたりごみ排出量[g]	435	424	420	424	438	438

【本年度の評価】 目標を達成した

【評価の理由】 ごみの減量については、市民に定着しているため

【目標の確認のための取組】 総ごみ排出量及び総資源化量の集計



《令和 2 年度の取組事例》

- ・「家庭の資源とごみの分け方・出し方」パンフレット、カレンダーにより、廃棄物の適正処理の周知及び資源に対する意識の啓発を図った。全戸配布(約 11 万 4000 部)を実施。
- ・最終処分場廃止に至るまでの維持管理計画に基づく水質等の調査及び跡地整備工事を実施し、跡地を公園として整備した。
- ・事業系ごみの適正処理についてパトロールを行い、必要に応じて適正処理・処分方法の案内や指導を行った。
- ・広報やまと、FM やまと等による市民へのごみの減量化・資源化の啓発活動を行った。

循環

15.「エネルギー」

目 標：エネルギーを有効に利用するまち

数値目標：住宅用太陽光発電システム補助累積件数 2,500 件

再生可能エネルギーの普及拡大を目的とし、平成21年度から開始した住宅用太陽光発電システム補助の累積件数

項 目	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	目標値
住宅用太陽光発電システム補助累積件数[件]	1,408	1,507	1,611	1,723	1,789	2,500

【本年度の評価】

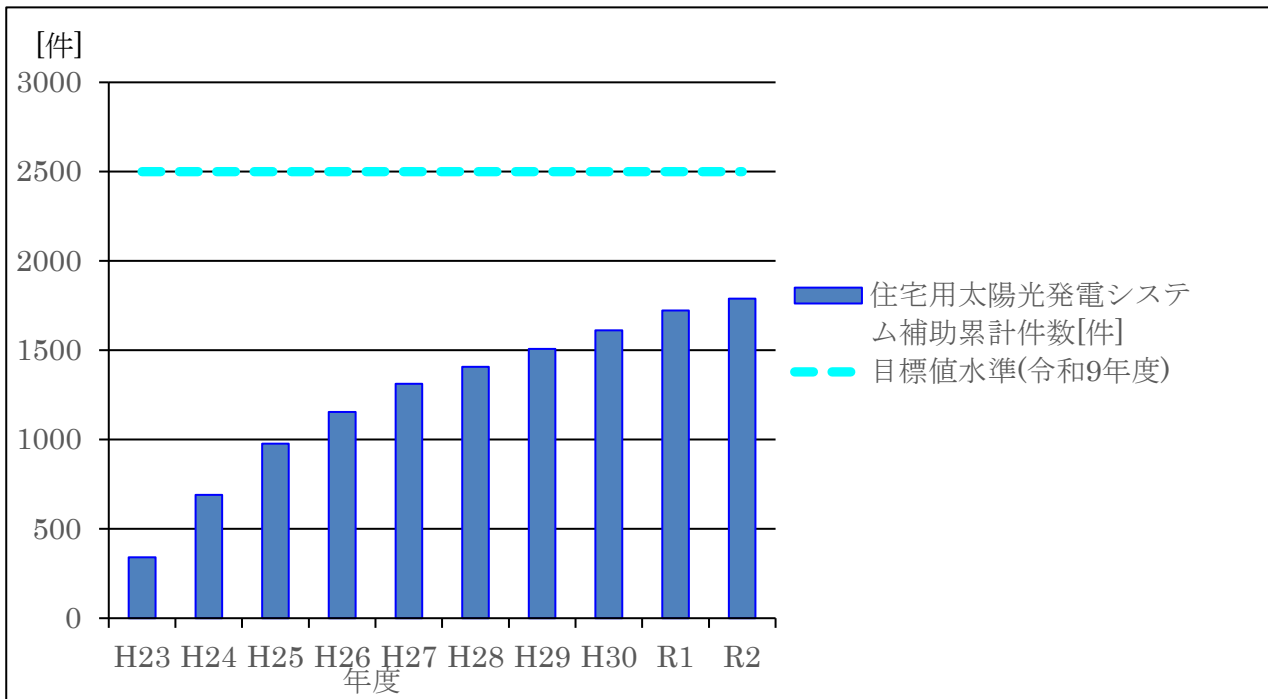
年当たりの補助件数が目標を達成していない

【評価の理由】

令和9年度累計目標達成には年間100件程度の補助が必要となるため

【目標の確認のための取組】

住宅用太陽光発電システム補助件数(累計)



《令和 2 年度の取組事例》

- ・家庭用燃料電池システムの補助制度や環境配慮指針により、省エネルギーの普及を促進した。
- ・太陽光発電等の補助制度により、再生可能エネルギーの普及を促進した。
- ・ごみ処理施設でのエネルギーの有効利用を図るため、焼却炉の稼働計画を作成し、効率的発電を実施したところ、当初計画通りの発電を行えた。

**環境保全活動**

16.「環境保全活動」

目 標：環境にやさしい市民のまち

数値目標：市内全校のやまと みどりの学校プログラムへの参加

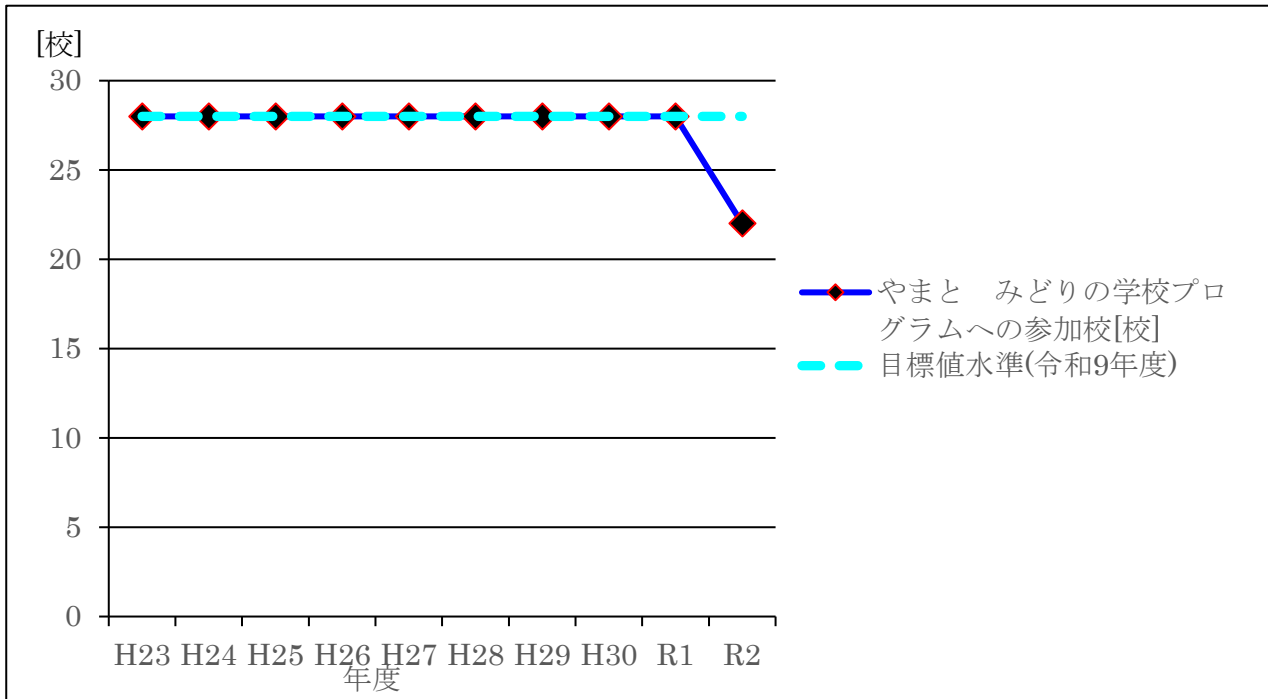
環境教育の定着を目的として市内小中学校(全28校)が「やまと みどりの学校プログラム」への参加を達成したかどうか

項 目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標値
やまと みどりの学校プログラムへの参加校[校]	28	28	28	28	22	28

【本年度の評価】 目標を達成できなかった

【評価の理由】 新型コロナウイルス感染症の影響により参加できない学校があったため

【目標の確認のための取組】 やまと みどりの学校プログラムへのエントリーの確認





## 環境保全活動

### 16.「環境保全活動」

目 標：環境にやさしい市民のまち

数値目標：「環境に配慮したり、環境保全活動に取り組む人が多い」と感じる市民割合  
50%

市が行う環境に関するアンケート調査結果

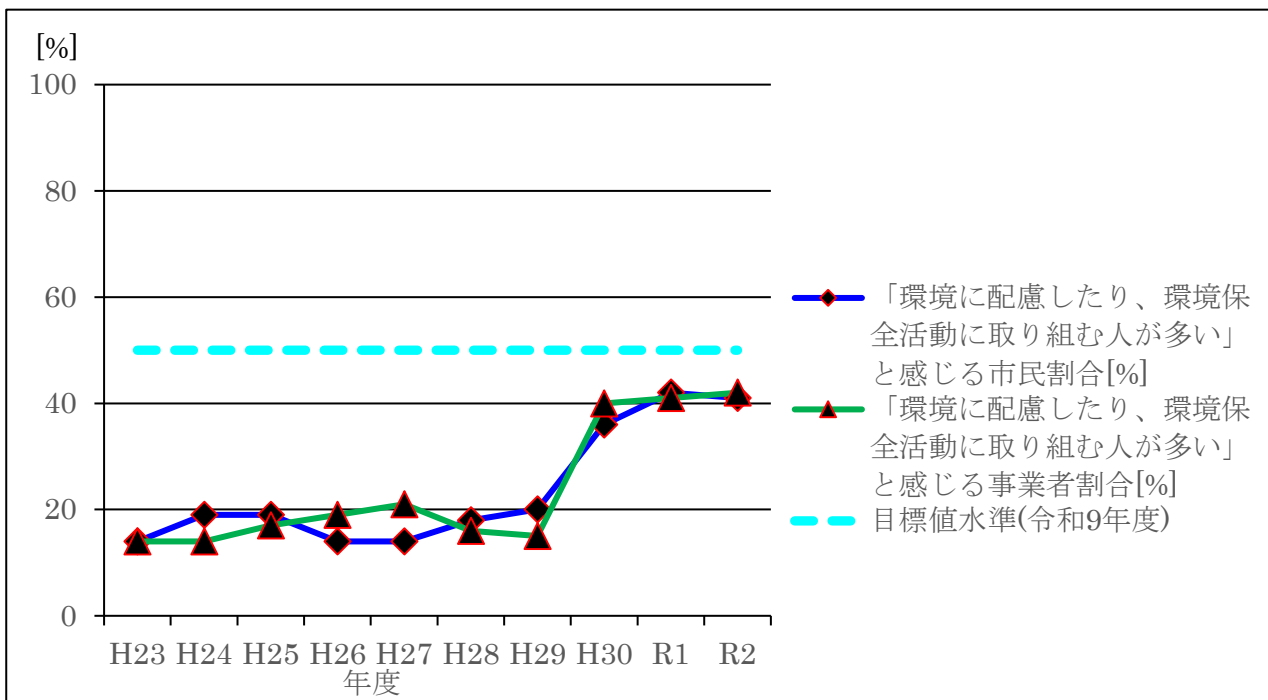
項 目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標値
「環境に配慮したり、環境保全活動に取り組む人が多い」と感じる市民割合[%]	(18)	(20)	36	42	41	50
「環境に配慮したり、環境保全活動に取り組む人が多い」と感じる事業者割合[%]	(16)	(15)	40	41	42	50

※アンケートの回答はH29年度まで「思う、どちらともいえない、思わない」の3段階で「思う」の割合。H30年度からは「思う、やや思う、あまり思わない、全く思わない」の4段階とし、「思う、やや思う」の割合。このため、H29年度までの数値は参考値として( )でくくります。

【本年度の評価】 市民割合、事業者割合ともに目標を達成せず前年度と同等だった

【評価の理由】 市民、事業者ともに環境に配慮したり、環境保全活動に取り組む人が多いと感じる割合が前年度と同等のため

【目標の確認のための取組】 市民・事業者アンケートの実施



#### 《令和2年度の取組事例》

- ・総合的な学習の時間における環境学習について相談に応じ、関係各課の協力を得ながら支援した。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、一部の講座を中止した。
- ・ホームページや刊行物で、環境情報の提供を行った。